

HICAMS (流通業を対象とした 意思決定支援標準 ソフトウェア・パッケージ)

今日、流通業では、個別の日常業務処理を支援する情報処理システムの構築の段階から、日常業務で得られたデータを統合し、種々の管理・計画上の立場で情報処理システムを活用しようという段階に進みつつある。従来、計算機には、豊富なデータが蓄積されているにもかかわらず、必要な管理情報が即時に得られないとか、利用者に必要なフォーマット（グラフなど）が得られないといった管理者の不満があった。

この問題を解決するために、日立製作所は、ユーザーの協力を得て、流通業における意思決定支援システム・パッケージ HICAMS(Hitachi Computer Assisted Management Systems)を開発した。

HICAMS は、簡易な操作により、日常業務で蓄積されたデータベースから、管理計画業務に必要な情報を検索し、簡単な予測シミュレーションなどの加工を行ない、その結果を、H-9415、H-8844ビデオ端末及びラインプリンタに任意の様式で出力できるプログラム・パッケージである。

例えば、資金管理では、資金量及び手形データベースから情報を検索し、次のような機能を実現することができる。

(1) 資金量を科目別、銀行の預金別などにテーブル形式でビデオ端末に表示。

(2) 銀行別に預金と借入金とのバランスを棒グラフで端末に表示。

(3) 数日先の必要資金量を、手形期日との関連で計算し、結果をビデオ端末、あるいはラインプリンタに出力。

HICAMS は、資金管理・利益管理(予算管理)・商品管理・オーダエントリの四つの業務から成っている(図1)。

利用者は、この中から必要業務を選択し、管理支援のための情報処理システムを構築することができる。

HICAMS の技術的な特徴は、(1)プログラム・モジュール統合化方式及び(2)メンテナンスの容易な標準パッケージ構築方式である。

(1)は、業務プログラムを、入力・解読・検索・加工・編集・出力の六つの基本的なモジュール群に分割し、各モジュール群を機能的、かつ基本的なモジュールに再整理し用意しておき、それぞれのモジュールを組み合わせて、一つの業

務プログラムを作成するものである。

また、モジュールの組合せや表示すべき文字などは、テーブルによって管理されるので、テーブルを書き替えるだけで、必要に応じた情報処理を行なうことができる。(図2)

テーブルに登録された標準的なモジュールの組合せが標準パッケージであり、組合せは自由に変えられるため、仕様を変えたい部分だけを変更することができる。これがメンテナンスの容易な標準パッケージ構築方式である。

以上の特徴のため、各利用者の目的に適合した情報処理を、ほとんどプログラムを作成することなく行なわせることができ、情報処理の効率向上及び高信頼化が期待できる。

HICAMS は、HITAC M-150、H-8250、L-340 のバッチ及びオンラインの下で稼動できる。現在、既に10社への導入が決定している。

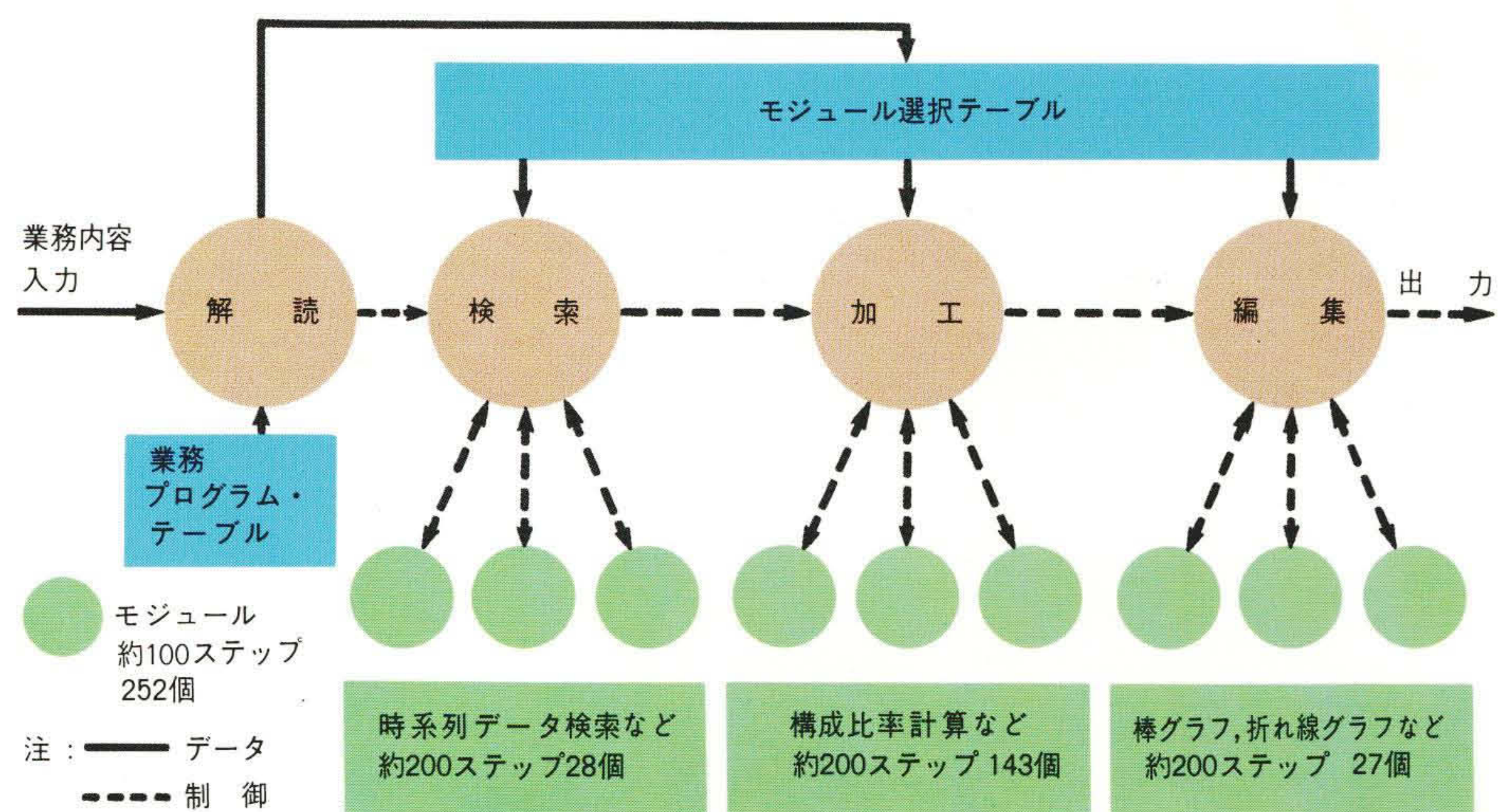
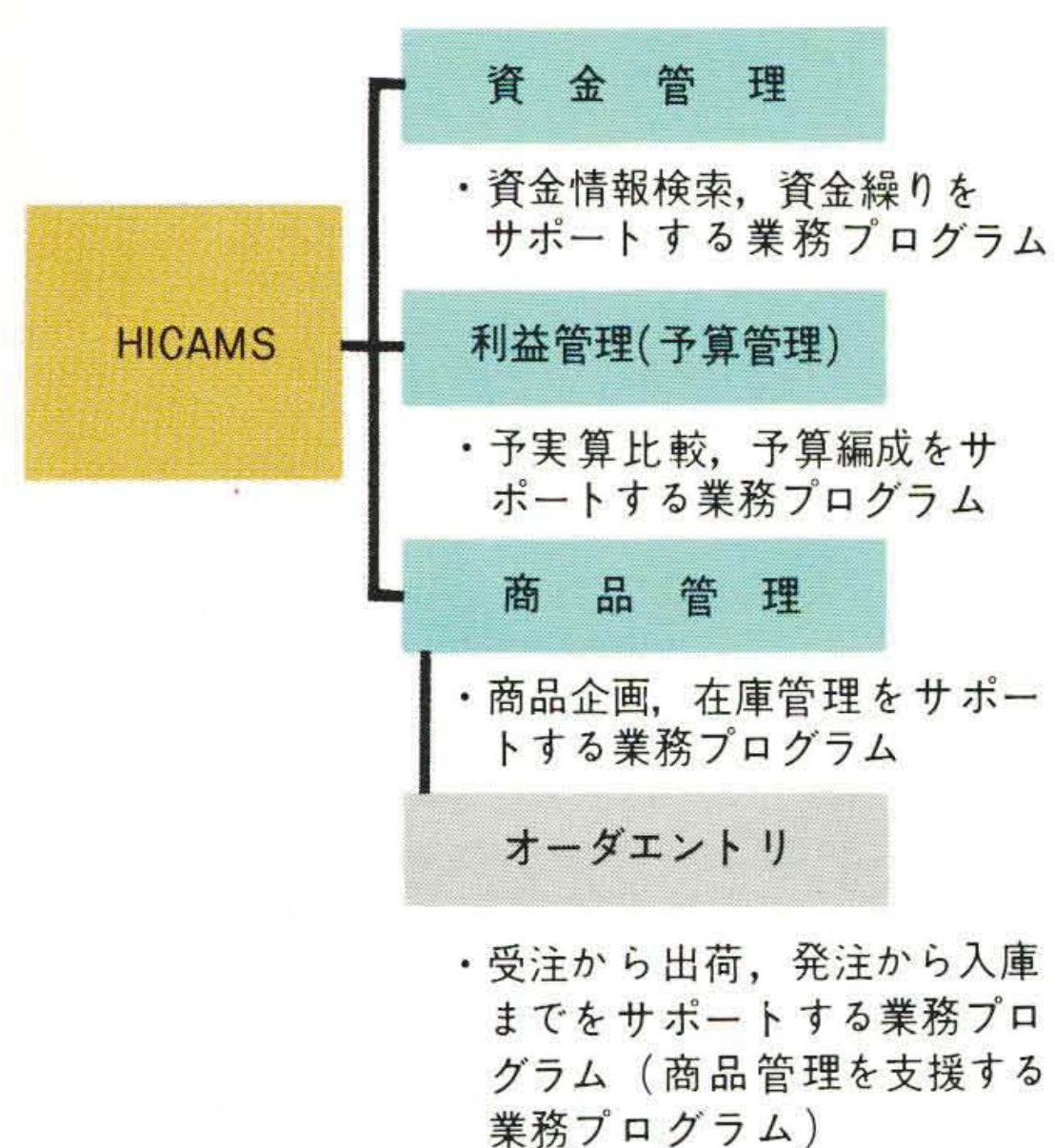


図1 業務プログラム・パッケージの構成

図2 プログラム・モジュール統合化方式